

津波・命を守る心構え

企画 意図

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、想定外の巨大な津波を引き起こし、東北地方沿岸を中心に多くの死者・行方不明者を出した。この作品は、東日本大震災津波取材し、津波という自然災害から命を守っていくためにはどのような意識を持ち、どのような行動をすべきかを考えるものである。小中学生600人が津波から逃げ切った「釜石の奇跡」はなぜ起こったか。釜石で長年防災の指導をしてきた片田敏孝教授にお話を伺う。また、津波のメカニズムを解説し、津波から命を守る知恵を伝えていく。

内容

○オープニング

2011年3月に宮城県沖でマグニチュード9.0の地震が発生。地震に伴い、東日本沿岸の広範囲に大津波が襲った。今回の津波で生死を分けたものは何だったのか？東海・東南海・南海地震の危険も迫っている今、津波に対して私たちはどのように備えればいいのか。

○東日本大震災津波

生死を分けたものは何か、津波防災に長年取り組んできた群馬大学大学院の片田敏孝先生に話を伺う。今回の犠牲者のうち、ハザードマップの外側の方々が多く亡くなっている。ハザードマップは、津波の浸水地域を予測するもので、地域の地形を知るためには必要な情報。しかし、これを一つの想定と捉え絶対的なものと思えないことが大切である。

○津波で命を落とした人たち

岩手県釜石市の津波による死者・行方不明者のうち、65%が浸水想定区域外に住んでいた。また、気象庁の津波警報で津波の高さが「3メートル」と報じられたことにより避難を躊躇したと答えた生存者も多くいた。

○助かった地域の事例

そのような中、釜石市鶏住居町では学校にいた小中学生の全員が助かった。生徒・児童たちが自主的に学校から避難し、避難所と想定されていたところも危険と思えばさらに上の場所まで避難し続けたことが、命を救うことにつながった。

○避難三原則

釜石で8年にわたり防災教育を続けてきた片田先生は、避難三原則を子どもたちに教えたという。

- ・「想定を信じるな」
- ・「その状況下で最善を尽くせ」
- ・「率先避難者たれ」

○津波常襲国・日本

近い将来、太平洋沿岸で大きな津波が予想されている。日本海沿岸でも過去に津波災害の記録もあり、海に囲まれた日本は、常に地震と津波に備える必要がある。

○津波の基礎知識

津波の正しい知識を知ること大切なことである。

- ・高さ 50 センチの津波でも威力がある
- ・津波の動きを予測するのは難しい
- ・津波と震度の大きさは関係ない
- ・津波の前兆は「地震」以外にない

○地震があったら高台へ

海岸近くでは津波に対する用心を忘れない。わずかな揺れでも警戒し、大きな揺れの場合は、津波情報を待たずにすぐに高台へ避難することが大切である。

自分の命を守ることに主体的であれ。そして最善を尽くすことへの心構えが一番重要である。

写真提供：海上保安庁

